

# 我等が「日本」… 世界最高の国

明けましておめでとう御座います。

今年はいノシシ年です。年男年女に当たる方々、また、そうでない方々も、「運氣」は自ら手繰り寄せて、新たな一年も素晴らしい年に致しましょうね。まあ今では、切っても切れない存在に成長した「年賀状」は、正月の風物詩として、楽しみのも一つでもあります。さて、この『年賀状』、由来については、今を遡ること平安時代であります。当時八ガキではなく、書状という形で上流階級の間で行われたのがその起源だそうです。その後、飛脚制度が発達した江戸時代中期に、一般人の間にも広まりをみせ、隣近所には菓子折を持って行き、お互いに目出度い新年のご挨拶をして気持ちを伝え合っていたとのこと。その情景を想像しただけで、何だか真心が籠もって「やっぱり日本人っていいなあ」と、気持ちが良いなってきますよね。更に時代が進み明治時代に入ると、現在のような「年賀八ガキ」をやり取りする形式に落ち着いていきました。とはいえ現代では、この年賀八ガキを出すという風習も、今や若い世代の間では、パソコンや携帯電話からの「あけおめ」「ことよろ」等と、メール交換での挨拶に取って代わり

始めております。確かに便利になるのは結構なことですが、何だか気持ち冷めている様に思えます。なんとと言っても、機械からの文章ですからねえ…なんか寂しい感じさえ受けるのは私だけでしょうか？

さて、昨年間の日本を表す文字として『命』の1字が当てられました。明るい話では、皇室に男児が「御誕生」され、日本中を明るく元気にしてくれる出来事がありました。また一方、世の中を暗くする「自殺」のニュースが多く報じられました。生と死の軽重を本当に考えさせられた一年であったことは間違いありません。今年こそは、今年こそはと願いながら、ついに昨年も三万人を超える人達が、自らの手で命を絶つてしまいました…誠に残念極まりありません…(嘆)。実に八年連続の間、全国で自殺をする人の数が、判明しているだけで3万人以上という、誠に異常な、現代人の現状であります。中でも1つクローズアップするとすれば、やはり「いじめ」による自殺問題でしょうね。「いじめ」による小中学生の自殺、またそれを受けて校長先生が苦渋の自殺。マスコミはこぞって教育委員会や学校を標的にしますが、そんな事よりも、その本質を正すことが急務ではなからうかと思えます。…  
こういう話があります。ロシア生まれのアメリカ人作家・アイザック・アシモフはジョークで、「国家予算の赤字で頭を抱えていたレーガン大統領が物理学者に『2たす2はいくつになるか?』と質問すると、物理学者は即座に「4です」と返答。次に同じ質問を統計学者にすると「小学校4年生を対象に行つた最新の調査結果から平均値を求めたところ、約4との答えが得られました」と返答。最後に経済学者に質問すると「どのような答えをお望みですか?大統領」と返答する。「色々な意見、色々な人間がいて然るべきであり、人はそれぞれの役割を持って生まれてくる。人間の足し算は2+2=4とはなりません。個々の違いこそが役割そのものであり、そこにこそ、全体、世界が構築されております。

私が知る「日本」という国は、世界のどの国と比べても、地球上他に類を見ないほど歴史は長く、かつシツカリした縦軸と横軸で成り立っています。縦軸の中心には皇室があり、その長さには確かな事実でも千四百年も遡ります。しかも外国によくあるコンカラー(征服者)ではなく、国民から「おおみたら」と呼ばれてきました。古来日本人は異常なほどに先祖を敬っていました。親御さん達は子や孫に古い家柄を誇り、ご先祖様の名を汚してはならない、墓参りをしっかりとしないと、うるさいくらいに説いて聴かせました。田舎に行くほど素晴らしい仏壇があり、花嫁はまず仏壇にお参りし挨拶を交わします。

それに比べ、歴史認識などをうるさく言う中国は、歴史こそは長いが、各王朝が易姓革命を繰り返して、縦糸はズタズタに切れている。一方、日本国民は6世紀に仏教が伝来するも、元々歩んできた神道を捨てるでもなく、新渡来の仏教をいたずらに排斥するでもなく、神仏習合の生き様を見出し、ますます縦軸を強くしました。また稲作に従事し、古くから地球と共に、自然と共に生きてきました。田植えは全国各地に田植え歌があるので分かりますが、隣近所が皆で手伝って行う。台風や地震も昔からあつたはずですが、収穫寸前に突然襲つた天災は、自分達では到底処理できない神の制裁と捉えておりました。そしてまた自分の努力で豊作満作を迎えたとしても、神仏の恵みであると、謙虚に受け止めてこられた。収穫感謝祭が祭りの原点である様に、氏神を祀り感謝の気持ちを表しました。境内の掃除も、祭りの準備も村人全員で行い、祭りの費用も奉賛帳が回り、祭りの御輿(みこし)も氏子が総出で担ぎました。そして自警団をつくり保安に当たったり、消防まで村民達で編成。もしこれらを拒めば「村八分」にされるほどです。まじいまでの横軸の構築だつたようです。だから戦前の田舎では隣の家の戸棚の中が分かつたとさえいわれたそうです(笑)。この様に世界類稀な縦軸と横軸で織り成された日本の歴史、日本の文化の基調は「恥(恥を知れ)」でありました。先祖がよく見えるから先祖の名を汚してはならない、子孫に恥を残してはならない、隣の人や裏の家から笑われないよう

にするという精神作用がしたたかに生まれました。土農工商といわれ、社会的ステータスの最も高かった武士達の自覚が日本民族の恥の文化を「武士道」にまで昇華させました。時代は変わりすぎましたが、それにしては戦前世界の識者達をうならせてきた「武士道」の国の面影は今や全くありません。戦い敗れた61年前、時の占領軍が「歴史・地理・修身」を教えるはならないとの昭和20年12月31日の指令に最も大きな理由がある様に思います。「国を滅ぼすには武力はいらない。その国の歴史を消せばよい」との説があるくらいです。有色人種でありながら日本国が世界の五大国になり得たのは、この縦軸、横軸の織り成す世界稀なる結合体であり、恥の文化・感謝の国であつたからであると思います。

現実に戻れば、我々はみな個の主張にはしり、公を忘れ、権利を主張するのみで義務を説くことなく、縦軸も横軸もズタズタに切れている。縦軸、横軸の再構築のためには、やはり共同体の絆を取り戻さねばなりません。教育、とりわけ家族の躰を徹底する事で、我等の頭上に再び陽が昇る事を信じています。

合 掌

副住職 谷川 寛敬